

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520406

研究課題名（和文） 古代・現代語の指示詞における総合的研究

研究課題名（英文） A synthetic study of Demonstrative in Japanese

研究代表者

岡崎 友子（OKAZAKI TOMOKO）

研究者番号：10379216

## 研究成果の概要（和文）：

現代語の指示代名詞の研究については、これまで多くの成果が出ているが、フィラーや古代語の指示詞については未だ分からないことが多い。そこで本研究では、様々な分野の研究者が連携し、古代・現代語の指示詞の用法について調査・分析を行い、その用法を究明した。さらに研究期間中に収集・整理した古代語の指示詞の用例や、TV番組におけるフィラーについて、公開のためにデータベース化をおこない、指示詞用例集として刊行した。

## 研究成果の概要（英文）：

There are many excellent studies on demonstrative pronoun usage in Modern Japanese. However, the ancient Japanese demonstratives and fillers for the modern Japanese have not yet been elucidated in academic studies.

In this study, researchers gathered from various fields, discussed and clarified the usage of these types of pronouns and published a database of the modern and ancient demonstratives collected in the research.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：指示詞・日本語学・言語学・歴史的研究・理論化・データベース化・対照研究・語用論

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1) これまで指示詞研究は、他の言語研究と同様に各分野のアプローチにより、それぞれの研究がなされてきた。

また、それらの研究成果についてはお互いに参照されることもあまりなかった。

(2) 現代語、特に指示代名詞に関しては多くの成果が出され、精密な分析が得られるようになったが、上代から近代までの歴史的な指示詞(指示代名詞・指示副詞) また現代語の談話における指示詞(フィラー)は、未だ明らかになっていないことが多い。

(3) 本研究の予備的な調査から、韓国語の指示詞と古代日本語の指示詞の用法は、現代語よりもさらに類似するところがあることが明らかとなった。

(4) (上記(2)でも述べたように、現代語の指示代名詞に関する研究に関しては、かなり進んでいるため) 現代語の指示代名詞についての研究は飽和状態であり、新しい研究の方法も望まれるところである。また、日韓指示詞についても((3)で述べたように) 更なる研究の発展が予想される。

2. 研究の目的

本研究では、様々な分野の指示詞研究者(国語学・言語学・日本語学)が集まり議論することにより、各分野のアプローチを越えた、指示詞の用法の理論化を行う。

特に、本研究は歴史的な指示詞(指示代名詞・指示副詞)の用法、及び現代語の談話における指示詞由来のフィラー(「あの一、その一」)の用法、そして日韓の指示詞の用法の違いを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

現代・古代語(さらに韓国語)における指示詞(指示代名詞・指示副詞) 及び現代の談話におけるフィラー(「あの一・その一」)の用例を採取・整理し、そして各担当者が、それぞれの用法について理論化を行う。その後、全員で集まり議論し、理論をさらに精密化する。

以上により複雑な指示詞の本質的用法にせまっていく。

活動については、

(1) 年3回会議(会場は、就実大学・大阪大学・岡山大学等)

(2) 「指示詞研究会」を開催し、研究発

表を行う。

また、研究会は公開とし、広く意見も求めた(より多くの研究者に参加してもらうために、主として「土曜ことばの会」と共同開催とした)。

なお本研究は(研究協力者として)、藤本真理子氏(大阪大学大学院生)、清田朗裕氏(大阪大学大学院生)の協力を得た。

4. 研究成果

現代・古代語、談話における指示詞(フィラー) そして日韓指示詞の対照研究の成果について、各自、論文にて報告した(研究成果報告書を公刊した)。

内容については、以下の6点である。

【研究成果報告書・論文編】

研究代表者：岡崎友子

題目「中古における指示副詞の用法と変化について」

研究分担者：堤良一

題目「談話中に現れる間投詞アノ(一)・ソノ(一)の使い分けについて」

題目「プロフィシェンシー研究と言語研究の接点 間投詞アノ・ソノの考察を通して」

研究分担者：金善美

題目「現代韓国語と日本語における「/この+X」の範疇解釈を導く名詞と述語について」

研究協力者：藤本真理子

題目「中古和文における指示詞の分析 会話文と地の文の境界をめぐる」

研究協力者：清田朗裕

題目「中古語の地の文にみえる力系列指示詞について 『源氏物語』を対象に」

また、期間中に収集した用例についても、上記の論文と合わせて、ともに公刊した。

用例集の内容については、

【研究成果報告書・用例集】

(1) フィラー編

(堤良一担当)

(TV番組「ブロードキャスター」における) 現代語の談話におけるフィラー

(2) 古代語編

(岡崎友子、藤本真理子、清田朗裕担当)

古代語(源氏物語)における指示代名詞「カノ」「アノ」「ソノ」

古代語(源氏物語)における指示代名詞「ココ」「ソコ」「カシコ」「コナタ」「ソナタ」「アナタ」

古代語(源氏物語)における指示副詞「サ」

上記の古代語の用例集に関しては、従来の用例を集め、分類した形だけではなく、他の分野でも利用しやすいように、テキストの情報や現代語訳等も付した。

さらに、歴史的研究に関しては、代表者が平成21年度科学研究費補助金・研究成果公開促進費(課題番号215062)を得て、著書『日本語指示詞の歴史的研究』(ひつじ書房)を刊行している。

本書では特に、現代・古代語の指示副詞を中心に指示・副詞の用法、歴史的变化を論じ、また指示代名詞まで含んだ指示体系全体からの考察も行い、指示代名詞・指示副詞が互い影響を与えながらも体系的に変化したことを明らかとしている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

岡崎友子、中古における指示副詞の用法と変化について、就実表現文化、査読無し、第2号(通巻第28号)、就実大学表現文化学会、2007、94(1)-74(21)

岡崎友子、指示語「サテ」の歴史的用法と変化について - 『源氏物語』を中心に -、国語語彙史の研究、査読有り、二十七、国語語彙史研究会、2008、183-202

岡崎友子、接続詞「サテ」について - 現代語の用法とテキスト -、就実論叢、査読無し、第38号、就実大学・就実短期大学、2009、63-78

岡崎友子、サテの歴史的变化について - 中世天草版平家物語を中心に -、語文、査読無し、第92・93号合併号、大阪大学国語国文学会、2010、65-73

堤良一、談話中に現れる間投詞アノ(一)・ソノ(一)の使い分けについて、日本語科学、査読有り、第23号、国立国語研究所、2008、17-36

金善美、現代韓国語と日本語における「 / この+X」の範疇解釈を導く名詞と述語について、朝鮮学報、第207輯、査読有り、朝鮮学会、2008、39-60

〔学会発表〕(計10件)

岡崎友子・朴美賢、日韓における指示詞について、第1回指示詞研究会・研究発表会、大阪大学大学院文学研究科、2007年5月19日

岡崎友子、古代語の指示副詞「サテ」の用法と変化について、第47回中部日本・日本語学研究会、岐阜聖徳学園大学、2007年7月28日

岡崎友子、指示副詞の歴史的用法と変化 - サ系列の直示用法の発生を中心に -、日本語文法学会第8回大会パネルセッション「日本語指示詞の歴史的研究 - 『源氏物語』を中心に -」、筑波大学、2007年10月28日

岡崎友子、接続詞「サテ」について、第4回指示詞研究会(「土曜ことばの会」と共同開催)、大阪大学21世紀懐徳堂・多目的スタジオ、2009年1月24日

岡崎友子、「～ヤウ(ヨウ)」の歴史的な用法と変化について、第3回形式語研究会、国立国語研究所、2009年12月12日

堤良一、間投詞アノ(-)・ソノ(-)の出現頻度とその出現要因について、第2回指示詞研究会(「土曜ことばの会」と共同開催)、大阪大学、2007年10月20日

堤良一、フィラーのアノー・ソノーの出現場所(と身体動作)について、第3回指示詞研究会、岡山大学、2008年8月9日

金善美、朝鮮語の主題マーカー、中日理論言語学研究会第11回研究会、同志社大学大阪サテライト、2007年10月14日

金善美、現代韓国語と日本語の指示詞が指し示す範疇について、第2回指示詞研究会(「土曜ことばの会」と共同開催)、大阪大学、2007年10月20日

金善美、韓国語教育現場における日韓対照言語学的教授法の活用、第58回九州地区大学一般教育研究協議会外国語部会、ウエルシティ宮崎(宮崎厚生年金会館)、2009年9月11日

金善美、現代韓国語・日本語・中国語における指示詞の範疇解釈用法について、グローバル化における多言語同時学習環境及び政策 国際シンポジウム、台湾国立政治大学、2009年12月5日

〔図書〕(計2件)

岡崎友子(2010)『日本語指示詞の歴史的研究』ひつじ書房、日本学術振興会助成刊行物(課題番号215062)。

堤良一(2009)「プロフィシェンシー研究と言語研究の接点 - 間投詞アノ・ソノの考察を通して - 」鎌田修・山内博之・堤良一(編)『プロフィシェンシーと日本語教育』pp.143-163、ひつじ書房。

〔その他〕

ホームページ等

<http://homepage3.nifty.com/tomoko-oka/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡崎 友子 (OKAZAKI TOMOKO)  
就実大学・人文科学部・准教授  
研究者番号：10379216

(2) 研究分担者

堤 良一 (TUTUMI RYOUICHI)  
岡山大学・社会文化科学研究科・准教授  
研究者番号：80325068

金 善美 (KIM SONMI)

宮崎大学・教育研究地域連携センター・准教授  
研究者番号：20411069